

成果の説明書

(氏名) 野崎謙二	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<ul style="list-style-type: none">・ Nagoya University Alumni Association Thailand Branch による第 3 回年次セミナー「Past 135 years and the Future: Japan and Thailand Relationship in the Changing World」(タイ・バンコク)に基調講演者として招待され、「Japan-Thailand's Past and Future Relations: Challenges and Prospects」をテーマに報告資料を作成し講演を行った。	
2 その他の事項	
(1) 学会活動等	
<ul style="list-style-type: none">・ 日本地域学会理事として、学会の運営に貢献した。・ 9 月 27 日に開催された国際開発学会関西支部研究会(オンライン開催)において、ラオス国立大学 Phouphet 博士による報告「Decarbonization Pathways in Lao PDR: The Challenges and Solutions」に対して討論者としてコメントし、議論に参加した。・ 10 月 9 日開催の日本地域学会第 59 回年次大会(オンライン開催)において、①特別セッション「東アジアの経済開発」の座長を務めるとともに、②別の特別セッション「市場の空間的・構造的特性と公共政策」における鮎川瑞絵氏報告「ふるさと納税制度下での法人事業税が地方財政に与える影響」に対して討論者としてコメントし、議論に参加した。	
(2) 教育活動	
<ul style="list-style-type: none">・ 演習については、授業時間外の課外活動もサポートしつつゼミの運営を行った。・ 本学の協定校であるメーファールアン大学(タイ)の担当教員と協議し、共同でオンラインによるフィールドワーク(タイ側名称はフィールドスタディ)を実施した。オンラインであるが故の困難さもあったものの、両大学の学生が協力して文化等の相違についてプレゼンテーション資料や動画を作成し、発表することができた。・ 国内では、北九州市での現地調査を引率し、カンボジアでの水道整備事業に関する国際協力について官民の関係者から情報収集する機会を提供した。また、政府開発援助等の調査のために東京での現地調査を引率し、外務省や内閣府の担当者から話を聞く機会を設けた。・ ゼミ生やゼミ生のグループが経済学部ゼミナール協議会主催プレゼンテーション大会や経済学会主催学生懸賞論文に参加・応募し、複数の入賞を果たした。	
3 次年度以降の計画・抱負	
(1) 研究活動	
<ul style="list-style-type: none">・ この 2 年間研究活動が停滞していたので、改めて研究活動にも着手したい。東南アジア地域の経済連携、日本との関係等をテーマに分析する予定である。	
(2) 教育活動	
<ul style="list-style-type: none">・ 5 月にエラスムス・プラスの枠組みにより、協定校であるヴロツワフ経済経営大学(ポーランド)にて教育等の活動を行う。実際に欧州の大学での教育経験、ヴロツワフ経済経営大学や他国からの教員との間で教育研究活動について意見交換、情報交換を行い、教育研究能力のスキルアップを図る予定である。	

- ・新年度は、海外フィールドワークを再開したい。夏休み期間にはタイ、春休み期間にはラオスで実施できるよう、関係諸機関との調整を図る。
- ・タイではメーファールアン大学の協力を仰ぎ、昨年度のオンラインでの活動をさらに発展させる形で、両大学の学生が交流しつつ共同で作業ができるような枠組みを設けたい。